

ドキュメンタリー映画

「Journey to be continued—続きゆく旅—」

2017 年 4 月 遂に完成！



監督：岩井成昭

出演：可児市国際交流協会 外国人の子どもの高校進学支援「さつき教室」生徒ほか、可児市および周辺の外国につながる青少年

企画・製作：Sin Titulo

2016 年撮影

予告編：<https://youtu.be/5feFdneMmN8>

本作品に関するお問い合わせ

NPO 法人可児市国際交流協会

担当：各務（かかむ）

TEL:0574-60-1200 FAX: :0574-60-1230

Email：npokiea@ma.ctlk.ne.jp

〒509-0203 岐阜県可児市下恵土 1185-7

岐阜県で外国人住民の支援活動を行う可児市国際交流協会は、日本社会に居場所を見出せない青少年の内面に向き合い、未来を切り開くための方策を探るために、彼らの心情を映像に投影し、対話のツールとすることにいたしました。

世界が移民排斥へと傾いていく中、外国につながる子どもたちの有り様と支援する人々との混沌、挑戦について、国内はもとより海外へも広く発信し、対話を生み出していきたいと考えております。

作品概要

岐阜県可児市にはデカセギで来ている日系ブラジル人やフィリピン人など、外国人労働者とその家族が大勢住んでいる。外国人の支援活動を行う NPO 法人可児市国際交流協会の「さつき教室」¹に通う青少年たちは、日本で生まれ育った子もいれば、学業半ばで本国から呼び寄せられた子もいるが、いずれも「日本文化」を持たないことで地域社会に居場所を見出せず、アイデンティティの形成に支障を来すこともある。

本作品は、監督の岩井が可児市に滞在し、美術表現を用いた独自のアプローチで外国につながる青少年との対話を試みた記録である。用意された巨大なキャンバスに彼らは躊躇うことなく向き合い、色や形で見るものを圧倒するような表現を生み出していく。そこには彼らの本国における経験や日本の暮らしに対する不安や希望が交錯する。そして撮影を進めるうちに、青少年の抱える問題のほかに、彼らをサポートする教育者や支援者たちの葛藤、そしてこれから日本が向き合うべき多様な人々との共生について、様々な問いかけが生まれていった。



¹ 義務教育の年齢を超えた外国につながる子どもたちのための高校進学支援教室。

監督略歴

岩井成昭 美術家／イミグレーション・ミュージアム・東京主宰

東京藝術大学大学院美術専攻科修了。1990年代にノイズを含む音声や視覚情報を収集し、ギャラリー空間に再構成したサウンド・インスタレーションを発表する。90年代末からは人と社会の関係性にテーマを求め、主に欧州・豪州・東南アジアにおける多文化状況の調査を通して、ビデオや音声による作品を制作。近年では、以前からの手法に加えて、インスタレーション、テキスト、パフォーマンスなど、使用メディアや作品形態の幅をさらに広げると共に、国内外の都市や地方に滞在し、地域のコミュニティや伝統を現代の文脈の中で再構築する試みを続けている。映像作品としては「ハヤフサ・ヒデトを探して」(2004)「Kiku Sadud Ruk」(2005)「不随意の共同体ー現代家族ー」(2011)など、いずれも特定地域におけるテーマを顕在化させるためのワークショップを実施し、ドキュメンタリーとして記録するスタイルをとっている。



この映画は、上映会のみやDVDの貸し出しは行っておりません。講演もしくは、意見交換会をあわせてのご依頼としております。

料金表（上映を含む2時間の規定料金）

| | 企業研修 | 学校、行政 | 市民、NPO など |
|---|----------|----------|-----------|
| 監督、プロデューサー、 製作担当者による講演 | 30,000 円 | 20,000 円 | 10,000 円 |
| *上記は、50人までの規定料金です。消費税と旅費は別途申し受けます。 参加人数、時間により料金は異なります。ご相談ください。 | | | |

主催：NPO 法人可児市国際交流協会

助成：可児市